

議会だよ入善

GIKAI

DAYORI

NYUZEN

No.162
2012年 7月27日



オープンを祝って芦崎保育所園児

6月定例会

(株)ウーケに町有地売却 (補正予算)

2p

国民健康保険、国負担の拡大を (議員提出議案)

3p

ニーズに合った保育体制を (委員会レポート)

4~5p

町政を問う 一般質問 (5議員)

6~10p

どうする農村資料館!! (特集)

11p

露天商でにぎわう観音祭り (入善の祭り)

12p

(株)ウーケに町有地売却 工場増設に伴い支援

6月議会の
あらまし

6月議会は、5日から20日までの16日間開会し、町長から提案のあった補正予算など議案8件、専決事項の承認、固定資産評価審査委員の同意、議員提出議案5件を審議し、すべて可決した。

また、陳情2件を審査したほか、13日に一般質問が行われ、5人の議員が質問に立ち、論戦が交わされた。

補正予算の概要

6月議会に提案された一般会計の補正予算は、認知症高齢者グループホームの施設整備補助金や、株式会社ウーケの工場増設に伴う深層水供給設備工事費などが予算化された。

一般会計では、1億5531万円を追加し、総額102億1991万円とした。

簡易水道特別会計では、野中簡易水道施設の更新に係る工事請負費3300万円の増額を行い、総額8070万円とした。

下水道特別会計では、工事請負費など6738万円の増額を行い、総額19億1378万円とした。

主な事業

- ・認知症高齢者グループホーム整備補助金 1980万円
春日地内に新設される認知症高齢者グループホームの整備を実施する事業者に助成する。
- ・深層水供給設備工事費 2900万円
株式会社ウーケの工場増設に伴い、深層水を利用するための配管、送水施設を増設する。
- ・新川地域広域消防組合の臨時的経費 3922万円
新川地域消防組合発足に向けた通信指令システムなどの整備に係る臨時的経費。
- ・簡易水道維持管理費 3300万円
野中簡易水道施設の更新工事を行う。

主な条例の改正

次の条例案などを審議し、可決した。

入善町企業立地の促進等における固定資産税の課税免除に関する条例の一部改正

対象施設を設置した場合の固定資産税の課税免除の適用を、平成25年3月31日まで延長する。

入善町印鑑条例の一部改正

住民基本台帳法、入国管理法などの改正に伴い規定の見直しを行う。

企業立地用地の売却について

入善海洋深層水企業団地で工場を増設する株式会社ウーケの企業立地用地として、町有地の売却を可決した。

企業立地用地 下飯野218-1 外1筆
面積 1万2057㎡
売却価格 3647万円
契約相手 株式会社 ウーケ

陳情

直轄事業の継続と適正な維持管理、地元建設業への支援を求める陳情書

陳情者 国土交通省管理職ユニオン北陸支部 外1団体

賛成全員で採択とした

「緊急事態基本法の早期制定を求める意見書」提出を求める陳情書

陳情者 アジアと日本の平和と安全を守る富山県フォーラム

賛成多数で採択とした

工事の請負

次の工事請負契約について可決した

舟見地区交流センター（仮称）建設事業
工事請負契約

請負者 廣川建設工業株式会社
請負金額 2億1315万円

議員提出議案

北朝鮮による日本人拉致問題の早期解決を求める意見書

今年を拉致問題解決に向けた勝負の年として、北朝鮮による日本人拉致問題の早期解決に向け全力で取り組むよう、国に意見書を提出する。

賛成全員で可決とした

持続可能な市町村国保の構築を求める意見書

持続可能な市町村国保の構築に向け、国定率負担の引き上げによる公費負担の拡大など安定的財源の確保に向けた道筋を示すよう、国に意見書を提出する。

賛成全員で可決とした

尖閣諸島の実効支配を推進するための法整備を求める意見書

海洋国家日本の国益を保全するため必要な法整備を速やかに講じるよう、国に意見書を提出する。

賛成多数で可決とした

「緊急事態基本法」の早期制定を求める意見書

わが国の安全保障体制を確立し、国民の生命と財産を守るため、「緊急事態基本法」を早急に制定されるよう、国に意見書を提出する。

賛成多数で可決とした

直轄事業の継続と適正な維持管理、地元建設業への支援を求める意見書

国民の生命・財産を守るために国土交通省の北陸にある地方出先機関を廃止せず、直轄事業の継続と適正な維持管理とともに防災対策の強化を措置するよう、国に意見書を提出する。

賛成全員で可決とした

固定資産評価審査委員会委員の選任

6月30日で任期満了となる固定資産評価審査委員会委員に、山本雅暢氏を選任することに賛成全員で同意した。

（任期は7月1日から3年間）



山本 雅暢 氏
（飯野）

レポート

総務 常任委員会

地域密着型介護施設の設置に町はどう関わっているか

Q 近年地域密着型の介護施設が増えている。町は施設配置について事業者任せになっていないか。

空白地帯への施設誘導など、町全体を見ながら、事業者との相談体制を確立されたい。

A 地域密着型の施設整備は、町が第一の窓口。

介護保険組合とも連絡を取りながら進めたい。施設の整備に当たっては、地元との協議が必要であり、難しい場合もある。

自殺防止対策の補助 事業の内容は

Q 地域自殺対策緊急強化事業補助金の内容は。

A この事業は、県の10割補助事業で、21年度からの継続事業である。

今回、ゲートキーパー（命の門番）養成講座の追加、保健師の資質向上

研修などが加わった。対面型相談窓口をサウンエルで開設するほか、自殺対策として心の健康セミナーも開催している。

自殺者の数は年間12人である。

Q 自殺防止対策は、県の補助金があるから取組むと言う事ではなく、高齢者への対応や学校で命の尊さを教えるなど、町全体で積極的に取



こころの健康セミナー（うるおい館）

組む必要があるのでは。

A 一人暮らしや高齢者世帯が増えている。

民生委員、社会福祉協議会、福祉活動員など地域全体が、活動しやすい環境づくりに力をいれている。

ニーズに合った保育体制を

Q 核家族化の進む中、0～2歳児保育の要望が増えてきた。

保育士を増やして住民ニーズに応えよ。

A 保育士に過重な負担もかけられない。保護者ニーズにどう応えるか、家庭の状況に合わせ個々の対応も必要。

保育士を目指す人が少なく、公募しても人材確保が難しくなっている。身分保障、待遇など遅れている部分もあり、改善を進めたい。

こんな意見も

● 立地企業に対する固定資産税の免除など、優遇措置を講じている。

これら企業の地元高校生卒業生の雇用などで、積極的な対応を求めたい。

● どの地域でも農道、排水路の整備問題を抱えている。

今回、県単土地改良事業から、財源上有利な国補助への組替えとなった。

今後も、有利な財源で多くの要望に応えるよう期待したい。



0～1歳児の保育（梶山保育所）

常任委員会

産業教育 常任委員会

水道対策事業への
繰出金の内容は

Q 簡易水道特別会計への繰出金3300万円の事業内容は。



改修される駅南住宅駐車場のフェンス

A 野中・野中東の2つの町営簡易水道の配管などの更新だ。

現在の管は、昭和40年代に敷設されたもので、40年以上経過している。水漏れなど老朽化が激しいので、新しくする。

総事業費は約1億5000万円、5年の事業計画だ。今年度分の事業費として一般会計から繰出した。

利用者の30年間の負担で償還にあてる。

駅南住宅駐車場の境界フェンスの改修

Q 道路維持管理費の事業内容は。

A 駅南住宅の線路側駐車場とJR敷地との境界フェンスを、1000万円をかけて整備する。

現在のフェンスは痛みが激しい部分もあることから、今回、国交省海岸事務所付近までの約280延を改修する。

県単事業から国事業への組替えとは

Q 県単土地改良整備事業の補正予算の内訳は。

A 県単事業として、道古、板屋地区の農道舗装と浦山新地区の水路改修に、県からの補助金500万円が予算化されていた。

今回、国の補助対象となり、補助金が625万円に増えた。



老朽化した簡易水道施設（野中地内）

国際・地域間交流推進事業の内容は

Q 日中友好交流都市中学生卓球交歓大会派遣とは、どのような事業か。

A 日中友好協会や日本卓球協会の主催で、日中間で友好都市を持つ自治体が集まり、8月に北京で中学生の交歓卓球大会が開催される。

日中国交正常化40周年を記念して行われるもので、全体で80チームが参加する。

加する。
当町の友好都市の哈密市からの誘いだ。中学生2名を参加させる。町からも2名随伴する。

こんな意見も

●町は名水のPR目的で、ミネラルウォーターのペットボトル用フィルム事業に取組んでいた。その効果は薄かったのではないか。

今後、この事業に取組む場合は、町内の事業者にも公平になるよう配慮を。

●町の事業に、町内の事業者が入札に参加できない場合がある。町内の事業者にも配慮を。



入善駅を発車した普通列車

県が並行在来線の運賃25%増の試算
新幹線のために、なぜ住民の負担増なのか
企画財政課 長 利用者の負担増のないよう求めていく



松田 俊弘 議員

問 県は5月に、並行在来線の運賃25%の引き上げ試算を発表した。新幹線のために、なぜ住民が負担させられるのか。

九州の肥薩おれんじ鉄道は、JR資産を簿価の6分の1で譲渡させている。JR西日本に無償譲渡を求めべきだ。

梅津企画財政課長 現段階では、赤字を運賃収入で賄うとすれば、25%の値上げが必要となる。

利用者の負担増のないよう、県の協議会に対し、JR西日本に粘り強く要請していくことを求める。

消費税増税で、町内企業は厳しい経営を迫られる景気がますます悪化するのではと心配

問 町内のトヨタの下請

け企業は、単価が引き下げられて大変だと聞く。

輸出大企業は、輸出入し税が還付される。09年度、トヨタは約2000億円還付された。消費税率が上がれば、還付額も増える。

消費税増税で、町内の下請け企業、中小業者も一層厳しい経営を迫られる。これで、地域経済が守られると思うか。

米澤町長 地域経済や中小企業が、いまだに景気の回復が実感できない状況だ。

消費税増税で、景気の悪化がますます深刻なものになるのではないかと心配だ。

国民に丁寧な説明を行い理解を得ることが重要であり、慎重な対応が必要と考える。

問 国は、農家が機械や農地の購入に積立てる場合は、課税を免除する制度を設けたが、施設は対象外だ。

格納施設建設にも活用できるように、国に働きかけるべきだ。

竹島農水商工課長 この制度は、期限が平成24年度末の特例措置なので、期限の延長要望と併せ、対象の拡充などを国に働きかけている。

自然流下をより多くし、ダム排砂の改善をより大きな土石の排出を国と協議したい

問 漁業者は「排砂で細かな土砂しか流れず、漁場に影響を及ぼしているのでは」と述べている。ダム湖に達した流水は運搬力が失われ、大きな土石はダム湖上流に残される。結果、細かなものしか流れない。

この問題の解決には、年間を通して出水ごとに排砂を行い、自然流下の状態をより多くつくりだすことだと考えるが、どうか。

大角建設下水道課長 国土交通省から「大きめの土石の供給量が少なく、ダム下流側の川底が低くなってきた」との説明があった。

より大きな土石を有効に排出する方法について、国土交通省とともに検討・協議を進めたい。排砂の実施時期は、農業団体や、漁業団体と協議されて決められたもので、年間を通しての実施は困難である。

震災ガレキの広域処理、
受け入れについての対応は

町長 住民の理解と安全を第一に考え
被災地の復興に協力を惜しまない

問 ガレキの広域処理受け入れについて、町と新川広域圏組合との意思統一はされているのか。

町長 町は、環境省のアンケートに対し、条件つきで受け入れたいと回答

している。

広域圏組合では、まだ受け入れについての意思統一はなされていない。早急に理事会を開催し、試験焼却に向けて各議会や住民説明会などで、同意を得られれば受け入れとなるものと思っている。

なお、ガレキの放射線量は、国際安全基準の1kg当たり100ベクレル以下であることを条件とし、エコぽくとでの処理量は、一日当たり40トを想定している。

問 受け入れについて、町の考えはどうか。
また、放射線以外のダイオキシンなどの有害物質への対応は。

町長 先の高波災害の時には、全国から温かいご支援をいただいた。住民の理解と安全を最優先に、出来るだけのことを取組みたい。エコぽくとの処理機能からすれば、ダイオキシン類の発生はないと考えている。

問 地域医療の今後が心配されるなか、一次救急体制の整備見通しは。
小堀健康福祉課長 3月

新川医療圏での一次救急センター設置について
黒部市民病院での設置を1市2町で合意

に黒部市・入善町・朝日町の代表者と同医師会、県による連絡会が開かれた。

医師会から協力するとの報告もあり、改築される黒部市民病院での整備を進めることで合意した。

デイスポーターの設置、普及を検討しては多く、今後検討も

問 下水道整備率100%を間近かに控えて、家庭や事業所でのデイスポーター（生ゴミ粉碎処理器）の設置・普及を検討してはどうか。
建設下水道課長 生ゴミを1〜2ミリメートルに

粉碎して水と一緒に下水道に流せば、生ゴミの減量化や害虫の発生を予防できる。その上、ゴミの減量化により、焼却費用の節減にもなる。

また、その汚泥を利用したバイオマス発電など、再生可能エネルギーを生み出すことができ、循環型社会を考慮した場合、非常に魅力がある。

しかし、大量の汚泥による、下水道管の詰まりや、悪臭の発生など課題も多い上、施設整備や維持管理に多額の費用を要することから、現状ではなかなか難しい。

しかし、再生可能エネルギーへの活用は、今後の重要課題であり、検討したい。



とエコの施設焼却ゴミ



野島 浩 議員



沢スギ林内の木道

町営バス、日中は通院・買い物優先に見直しを
企画財政課 利用者や乗務員の意見を聞き、見直す



九里 郁子 議員

問 日中の町営バスは、通院と買い物優先すべきである。
乗り換えなしに舟見の温泉に行くこと。

乗り降りしにくい青色のバスは、低床バスに替えること。

冬だけでも小学生が登校時に利用できるようにすることなどの検討を求め。

企画財政課長 利用者や乗務員から意見を聞く。乗り換えの不便さの解消や路線の見直し、通学時の利用などを検討したい。

沢スギ林の木道改修を計画的に整備を検討したい

問 杉沢の沢スギ林内の木道は滑りやすくて危

険。文化庁文化財課に要望した際、計画を上げれば支援したいと言っていた。国・県の支援を受け改修すべきだ。

8月開催の全国高校総合文化祭で、町に全国から多くの高校生が来る。

ジャンボ西瓜やチュールップ球根など、特産物の提供を検討できないか。

堂徳教育委員会事務局長 木道の改修は、検討委員会設置など、計画的な整備を検討したい。

全国高校総合文化祭では、沢スギの間伐材に焼印し、入善高校生が絵を入れたコースターを渡す。特産物紹介のパンプ

レットを渡し、町をPRしたい。

問 滑川市から東部県境までのジオパーク構想の検討を始めてはどうか。

柚木教育委員長 県や他市町と情報交換を図りながら検討したい。

**紙おむつは高齢者の実態に合わせるべき
必要な方の給付に努めたい**

問 町内での特別養護老人ホームなどの増設計画と見直しはどうか。

紙おむつ支給は高齢者の実態に合わせるべき。
健康福祉課長 介護保険組合の第5期計画の3年間で、特別養護老人ホームは50床増床、地域密着型老人福祉施設では、認知症対応型グループホーム1カ所、認知症対応型デイサービス1カ所、小

規模多機能型居宅介護1カ所が拡充される。

紙おむつは、本人の身体や認知機能の状態などを、ケアマネジャーや介護者に確認しながら、必要な方の給付に努める。

**通信指令台に要援護者の情報入力を検討しているか
町担当課と協議していただきたい**

問 消防広域化協議会で、要援護者などの情報入力を検討しているか。

黒部市に設置される消防本部の非常用電源は十分確保されているか。

広野消防署長 要援護者などの情報は、個人情報問題もあり、町担当課と協議していきたい。
建設中の消防庁舎に、非常用電源を新たに増強する計画だ。

給食の放射性セシウムに対する安全確認と 検査体制は

教育長 公的機関の調査結果や 県が行うモニタリング事業で検査する

問 放射性物質に対する不安や疑問が続いているが、保育所や学校における給食や食材の安全確認はどのように行われているか。

また、セシウム濃度測定器を整備し、検査体制を整えるべきである。

滝本教育長 町では、50%に近い割合で地場産食材を使用している。それ以外は、公的機関の調査結果や出荷制限情報に注視しながら使用している。

また、学校給食の放射性物質の有無や、線量を把握する県のモニタリング事業が本年度から始まった。

県内全市町村を巡回し、提供した給食を精密測定器で検査するもので、その結果は公表される。

問 卵や乳製品、小麦な

どが原因で起こる食物アレルギーの実態はどうか。またアレルギーのある児童生徒も含め、全員が安心して楽しく食べられる給食の提供に取組むべきである。

教育長 現在食物アレルギーのある児童生徒は、保育所で32名、小学校で19名、中学校で15名の66名である。

保護者との連携を図る中で、可能な限り児童生徒個々の状況に応じた対応に努めている。

これまで、アレルギーの原因となるような食材を使わない給食メニューを月に3回程度提供している。

今後も全員が友達と楽しく会話しながら食事ができるよう対応する。

3月発生の食中毒 再発防止策は

危機管理マニュアルを作成し再発防止に努める

問 3月に保育所で発生した集団食中毒に対し、町はどのように対応したか。

またどのような再発防止策を講じたか。

町長 通所されている児童や保護者など、関係各位に深くお詫びする。

二度とこのような事が起きないように新川厚生センター指導の下で再発防止に努めたい。

危機管理マニュアルを作成し、保育所や小中学校に配布した。今後も関係機関と連携しながら、適切な衛生管理に努めたい。

健康遊具を配置した公園整備を

高齢社会の実態に即した公園整備に努める

問 高齢化が進む中で、町民の介護予防や健康づくりには、健康遊具の設置は有効な手段である。

今後の公園整備に併せて、健康遊具を設置してはどうか。

建設下水道課長 高齢社会という実態を踏まえ、元気な体づくりができる身近な公園を目指し、健康遊具の設置を検討する。

問 88戸が入居する東町住宅に、健康遊具の設置も含めた公園を整備すべきである。

建設下水道課長 昨年策定した「住まい・まちづくり計画」では、東町住宅に一般町営住宅12戸の増設が計画されており、それに併せて公園整備を考えた。



みんなで楽しい給食を（ひばり野小）

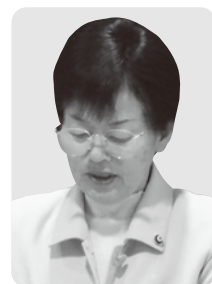


笹島 春人 議員



舟川にかかる「新左近橋」

福祉避難所に「おあしす新川」を指定。
 マニユアルの作成を求め
 健康福祉課 災害時要援護者支援マニユアルを
 地域の実情に沿い見直しを進める



大橋 美椰子 議員

問 福祉避難所に「おあしす新川」が指定された。利用しやすいよう避難経路も含めたマニユアルの作成を求める。
健康福祉課長 本年3月福祉避難所として「おあ

しす新川」と締結した。避難所としての施設、要援護者の移送、支援に必要な物資の調達、介助支援者の確保などを定めている。

町では災害時要援護者支援マニユアルを作成しており、地域の実情に沿った見直しをする。

橋梁詳細調査・補修設計の進捗を示せ
24年度内に調査・補修設計を行う

問 今年度予算の中に、「橋梁詳細調査・補修設計」がある。期間や内容、また調査の進捗を聞く。
建設下水道課長 町内の

橋梁の中には、建設後50年を迎え、老朽化が進んでいるものもある。損傷の度合いが大きくならないよう定期的に点検を行い、早期に損傷を

発見し、架け替え・大規模な補修に至る前に対策を実施し、「予防保全的」な対応をしていく。15m以上の5橋について24年度中に橋梁詳細調査・補修設計を行う。

不活化ポリオワクチン
 円滑な移行へ

問 9月から定期接種となる不活化ポリオワクチ

通知や広報で周知徹底

ン、該当者への周知徹底、供給量の確保など円滑な移行へ万全を図りたい。
 子宮頸がん、ヒブ、小児用肺炎球菌ワクチンは25年度以降も町の助成制度継続を求める。

健康福祉課長 9月より

ポリオから不活化ポリオに一回切り替えとなった。児童の保護者に対して情報提供をした。町医師会など関係機関との調整や接種体制の構築などの準備を行う。随時、個人通知や広報などで周知徹底を図る。

子宮頸がん、ヒブ、小児用肺炎球菌3ワクチン接種促進のための交付金は、24年度までの時限措置として助成されている。

この3ワクチンを25年度以降も円滑に接種できるように、国の動向を注視する。

訪問介護・看護サービスの24時間体制は
実施について事業所の意向調査を進める

問 安心の医療・介護の充実で、今求められているのが24時間対応の訪問介護・看護サービスの体制だ。町の考えはどうか。

健康福祉課長 事業の実施について事業所の意向調査などを進めていく。今回改正された介護保険法では医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが切れ目なく提供される「地域包括ケアシステム」の実現に向けた取組を進める必要があるとされている。
 町は介護だけでなく、保健医療との連携を図り、更なる在宅支援に向けた体制整備に努める。

どうする農村資料館！！

農村資料館とは

昭和54年、宥きゆう菴公園（旧新屋小学校跡地）の休憩所整備として、農村総合整備事業費1380万円で建設された施設。

入善町でかつて使用されていた生活用具、農具などを保管、展示している。

郷土の歴史の学習と次世代への伝承を目的とし、230点余の展示物と、古い民家の居間を寄付により再現している。

近年、施設の老朽化が著しく、雨漏りなど修繕費用がかさむことから、施設の取壊しと資料の移転、保存方法などについて、議会に提案されている。



農村資料館全景

次世代に伝えるための工夫を

Q 年配者でも使い方の分からない資料もある。映像化するなど、黒部川扇状地の歴史、農業の歴史など総合的な見地に立って、保存すべきだ。

A 建物は老朽化しており、修繕工事の繰り返しになっていく。取壊しについて地元からの要望もある。

目的を見落とすことなく検討を

Q 今日まで、次世代への学習に使われてきたか疑問。原点に戻り、郷土の歴史の学習と次世代への伝承が確保されてきたか。教育的見地に立って検討せよ。

A 資料の保存展示について、黒東小学校の空き教室活用も考えている。

将来展望をたて、体系的な取組みを

Q 後世に残すという姿勢がないために損傷したと思う。貴重なものはなんとか残すべきだ。他の類似施設も同じことの繰り返しで、美術品も眠っている。

A 町には、沢山の貴重な資料がある。将来展望をたて、その上で体系的な取組みが必要だ。

これらの貴重な資料を一つにまとめて、将来的に残せるものを残し、人に来てもらえるような取組みが必要と考えている。

資料も損耗が著しく、そのまま学校の空き教室に保管するのは安直でないか。展示をするには残すべき資料を選択して、手入れしてから残すべきだ。

A 展示方法を工夫し、再度議会に提案したい。

決算特別委員会でも指摘

Q 昨年の決算特別委員会でも取壊しの意見があった。



移築された居間（農村資料館内）

入善の祭り

観音祭り（入膳）

石堂山観音寺の法要、通りは露天商でにぎわって：



露天商でにぎわう観音祭り

入善町では、6月になると、町内の子どもたちが観音祭りを指折り数え、心待ちにする。

毎年、観音寺では6月18日から20日までの3日間にわたり、法要が営ま

れてきた。それに合わせて露天商が集まり、祭りをにぎやかに盛上げてきた。

大正7年には、商工会長米澤與三次から柚木榮次郎（柚木春雄氏宅）に、観音寺祭礼余興委員への囑託書が発行されている。その古さからも、祭りの歴史が感じられる。

観音祭りでは、参詣者は観音様にお参りをし、「目ぐすりの木」のお茶をいただいでから露天商へと向かう。今年も、たくさんの子どもたちが集まり、好きな食べ物やゲームを楽しんでいた。露天商の数も随分少なくなつたが、町で一番にぎやかな観音祭りは、昔と変わらず、町民に親しまれている。

石堂山観音寺の縁起

この観音寺の中に安置してあるご本尊の聖観世音菩薩は、奈良時代の高僧行基菩薩が作られた霊験あらたかな尊い像である。



祭り当日の観音寺

その由来は、天平年間、行基菩薩の北国巡行の際に、現在の黒部市村椿地区で霊雲がたなびいているのをご覧になり、そこで大きな石が光明を放つて、「南無観世音菩薩」「南無観世音菩薩」と唱えているのを不思議に思われ、その石に聖観世音菩薩を彫刻された。

当時、入善は金沢と言われていた。領主はこのご本尊を金沢地内の石堂（現NEC敷地内）に移し、石堂山法林坊と名づけ、天下泰平、五穀豊穡の祈願所とした。

観音祭りの始まり

天明年間に、入善の米屋與次郎（米澤紋三郎家の先祖）の下男の平兵衛なる者が、農作業中にご本尊に不敬な振舞いをしたために、全身がしびれ、目が見えなくなつた。與次郎は大変驚き、聖観世音菩薩の仏罰と思い、平兵衛を石堂に連れて行き、悔い謝らせたが、目は開かなかつた。平兵衛は更におそれおののき、日夜一心に御堂でお参りをしたお陰で、ようやく目の明かりを取戻した。これを聞いた人々は、この尊像をみだりに拝することはおそれ多いとして、與次郎が所有する現地に御堂を建立し、6月18日ににぎやかなお祭りをするようになったことが、観音祭りの始まりと言われている。

編集の窓

今年もまた節電の夏を迎えた。世情は、拡大する社会保障と税の一体改革にみる財政問題、震災のガレキ処理など…。

直面する問題が山積する中で、足の引つ張り合いに終始する国会議員。日本は、いつから何も決められない国になってしまったのか。

なかでもガレキの処理は緊急を要する。被災者を一日も早くガレキから解放することが、我々全員の義務ではないだろうか。国政に対するもどかしさが募るばかりである。

議会広報編集特別委員会

- | | |
|------|-------|
| 議長 | 長田 武志 |
| 委員長 | 中瀬 範幸 |
| 副委員長 | 松田 俊弘 |
| 委員 | 鬼原 征彦 |
| ” | 佐藤 一仁 |
| ” | 笹島 春人 |
| ” | 野島 浩 |